

H28.11.15 下田中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 15 日 (火) 午後 7 時から午後 8 時

場 所 下田市立下田中学校体育館

出席者 保護者及び教職員：33 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしく願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、中学校学区単位に開催させていただいております。10月24日には稲梓中学校学区で、11月11日に稲生沢中学校学区で説明会を実施し、また未就学児の保護者の方を対象としまして、民間保育園、認定こども園、幼稚園及び保育所での説明会も実施させていただきました。

また、市長と語る会を10月17日から昨日の11月10日までの期間、市内6地区で開催しました。市長より、学校再編をトップに庁舎や地域の課題について、話し合いを持ちました。

それぞれの会での、ご意見としましては、通学費や通学方法、そして、1校化になった場合のメリット・デメリット等のご意見を頂きました。

この後、事務局より今日に至った経緯と今後に向けてのスケジュール等の説明をさせていただきます。最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<保護者(女性)>

子どもが下田高校に通学しているのですが、親の送迎について何時から何時までは通行できないなど制限があり、また道路環境として道幅も狭く、送迎が近くまでできません。仮に稲生沢中となった場合、より多くの子どもが集まることになると思いますが、そういった部分での対策を何か検討されていますか。

<課 長>

ただ今頂いたご意見につきましては、説明会におきまして初めて聞かせていただきました。今の時点では、候補地についてどちらか決定しておりませんので、こういった問題について、中学校再編検討会議で課題として挙げさせていただき、その中で検討をさせていただきたいと思っております。ご指摘いただき、ありがとうございます。

<保護者(女性)>

それぞれの中学校候補地付近の子どもは良いと思いますが、遠方から通学する子どもたちは、災害時の引き渡しであったり、道路が寸断された時など、親にとっては非常に困ると思われれます。また通学時においても同じことが言えると思いますが、そういった時など防災面での対応をどのように考えていますか。

<課 長>

特に東日本大震災以降、防災についての意識が高くなっておりますが、大震災以前からも各中学校では、防災教育というものを実施させていただいております。また防災教育推進連絡会議というものもありまして、各学校において防災マニュアルというものは策定させていただいております。1校化になりますと、本日は下田中学校区で説明会を開催しておりますが、仮に稲生沢中が候補地になった場合、今以上に遠方になりますし、安全性についても下がると思われれます。ただ今頂いたご意見につきましてはご指摘のとおりだと認識しております。その対応につきましては、市の防災部局と協力をしながら、避難経路の確保や避難所の確認などの整合性をとりながらマニュアルを作成するなどの対応はしていかなければならないと認識しております。また、検討会議においてもこういった課題についても提示をさせていただきたいと思っております。ご指摘いただき、ありがとうございました。

<保護者(女性)>

遠方の人などはバス通学ですとかなり高額になると思われれます。スクールバスなどの検討はされるのでしょうか。

<課 長>

まず、通学補助について、資料の中にも記載させていただいておりますが、本日は下田中学校区で開催させていただいておりますので、補助内容について、改めて確認させていただきたいと思っております。現在の補助内容につきましては、小学生は4km以上に全額、中学生は6km以上に半額補助を例外の地区はございますが、交付しております。27年度ですが、下田中は66人の生徒に約212万円交付させていただいており、単純に1人当たりを算出しますと年3万円くらいとなり、中学生は

半額補助であり、保護者の方もこの額をご負担していただいております。一方、統合した後に、統合し稲生沢になった場合ですが、生徒数は196人、年間で約14,000万円、1人当たり7万5,000円くらいとなり、今の補助制度のままでいきますと負担が増えてしまいます。具体的な通学の補助内容については、今後決定されますが、教育委員会としまして、保護者の方に今以上の負担を増やさない形で取り組んで参りたいと考えております。

<教育長>

スクールバスについてご指摘いただきましたので述べさせていただきますが、教育委員会としましては、子どもたちに負担をさせないために最も良い方策を検討させていただき、仮にスクールバスを運行することによって財政的負担軽減や方法によっては通学時間も短くできるなども考えられます。そのような様々なご意見をいただき、検討をさせていただき、子どもたちが最も良いと思われる形で最終決定をさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

スクールバスが出た場合、朝早くからの部活であったり、また学年によっては部活をやらなくて帰宅する子どももいます。また、市内全域からの通学となるとやはり混雑することは避けられず、例えばずっと立っている子の負担であったり、先輩後輩のしがらみなども出てくると思います。スクールバスが運行するようになった場合には、可能な限りそういったことにならないよう細かな配慮もお願いしたいです。

<教育長>

例えば、公共交通機関などを活用する場合には、当然増便やあと部活の有無による時間差のお話も頂きましたが、必要な時間にダイヤの設定をしていただくなどの協議をさせていただく必要が出てくると思われます。スクールバスの運行となった場合についても同じようなことを当然考えていく必要があると考えております。バスが混雑するということですが、私が中学になった時に統合され、そういった混雑した経験をしました。なるべくバス1台に多く乗るということで1年生は立って、3年生は座るといったような、良いかどうかはわかりませんがそのような色々な状況が生まれると思います。教育委員会としまして、可能な限り細かな配慮をさせていただき、ベストな状態で望ませていただきたいと思います。

<保護者(男性)>

利便性ということで、今、下田中か稲生沢中という2校が候補地として絞られておりますが、保護者からすれば、2校のうち自宅から近いところになれば越したことはないと思っているのではないかと思います。今後、この2校を絞るのに何を決め手に選ぶのか、教えていただきたいです。バスであったらその負担額が少ない方にするなど考えられると思います。また、仮に稲生沢になった場合は、下田中の土地が空くことになり、例えば、浸水区域にある下田小をここに持つてくるというようなことも考えられると思いますし、そうであるならば、下田中学区の保護者はおそらく賛成するという事も考えられると思うのですが。

<教育長>

最終的な決め手というのは、現時点では持っていません。ただこういった説明会などでご意見を頂きながら、色々な条件の中でどちらが良いのかということを決断していかねばならないと理解しておりますが、例えば駐車場の問題、グラウンドの広さの問題など、たくさん課題が出てくると思います。それらを総合的に判断する中で、最終的な決定をしていくことになるのかと思います。申し訳ないですが、現時点では今発言させていただいたように進めさせていただき

たいと考えております。先ほどから検討会議のお話をさせていただいておりますが、その中で様々な課題を出していただき、方向性としてはこちらの方が良いのではないかとこのところを教育委員会として見出していきたいと考えております。現時点では、皆さんのご意見を聞きながらそれぞれの課題を整理し、最終的な判断をさせていただくことになるかと理解しております。

<係長>

補足させていただきますが、先に開催させていただきました第1回の検討会議についてですが、会議の中で色々なご意見が出されており、その中でこういった形で判断をしていくのかということもご意見として頂いております。その具体的な内容につきましては、市のホームページに資料とともに議事録も掲載させていただいておりますので、参考にしていただければと思います。

<保護者(男性)>

中学校がどこが良いかという判断の中に、通学の距離などを検討する必要もあると思いますが、中学校跡地をどう活用していくのか、それらを含めた有効性によって比較をするという部分も重要だと思っております。下田市全体として、市の姿勢として、そのような跡地利用についての検討をどうするのかという部分の検討もぜひお願いしたい。

<課長>

跡地利用につきましては、他の説明会や市長と語る会で特に地域の方からのご意見を多くいただきました。現在、具体的な跡地利用をこうするんだというものはありません。ただ、過去の事例を申しますと田牛に青少年海の家がありますが、これはかつての登自小学校を活用したもので現在、田牛地区の修学旅行の受け入れのための中核の施設として活用されております。また、加増野にはポーレポーレという農業体験施設があり、こちらはかつての加増野小学校、須原にもあずさ山の家がありこれもかつての須原小学校跡地に建てられており、活用されております。市全体として考えていかなければならないということは理解させていただいておりますが、教育委員会としましては資料の49ページにも記載してありますとおり、まずは、子どもたちの教育環境を守り、改善していくことが一番最優先事項だと考えており、新中学校候補地の決定につきましても、そういった視点をもとに選定をさせていただきたいと理解しております。

<教育長>

補足させていただきますが、やはりただ今いただいた跡地の問題については多くのご意見を頂いております。先ほど課長からもありましたとおり、まずは子どもたちの環境をいかに良くしていくのかという視点を大切なこととして、取り組んで参りたいと考えております。しかし今後、ある程度再編の検討についての方向性が見えてきた時点で、当然、跡地利用についてもスケジュール的にも市として決めていかなければならないと思っております。例えば、話として出ているのは市庁舎を跡地に建てるのが良いのではないかとのご意見も頂いております。しかし、そういった部分を含めて比較したときに、学校が先なのか、庁舎が先なのかというような、色々な思惑というものが絡んできてしまうという部分もあるのではないかと感じております。そういったことを踏まえると、教育委員会としましてはまずは子どもたちの教育環境というものを最優先に考えさせていただきながら、現在、取り組みをさせていただいておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

<保護者(女性)>

中学校の耐震ランクについて、具体的な説明をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

<課長>

説明資料の38ページに東海地震に対する耐震性能の表を掲載させていただいておりますのでご

確認願います。まず、ランクについては、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに分けられており、Ⅰは更にⅠaとⅠbに分かれております。それぞれに性能がありまして、Ⅱまででしたら、耐震性がやや劣る建物とされておりますが、耐震性があるという基準となっております。稲梓中校舎と下田東中校舎はⅡで耐震性はやや劣るとなっておりますが耐震性はあると判断され、それ以外の中学校も含めて、全ての中学校で、防災上の耐震性はあるとご理解いただいてよろしいと思います。基準については、国の基準となっております、理想を言えば、ⅡよりもⅠb、それよりもⅠaになった方が良いということになります。

<係 長>

それでは最後になりますが、今、説明会を開催させていただいておりますが、今後、保護者の方、全てを対象しましたアンケートを実施させていただきます。教育委員会としまして、皆様からの多くのご意見を頂くとともに多くの課題について、今、再編の検討会議というものを設置しており、その中で皆様のご意見を集約、検討させていただき、より良い学校再編に向けて進めていきたいと考えております。教育委員会といたしましても保護者の方のご意見は大変貴重なものであると認識しており、保護者の皆様におかれましても、ぜひともお声掛けをしていただき、多くのご意見をお寄せいただきますようご協力よろしくお願いいたします。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、下田中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。